

評価結果調書

1. 対象事業

項目	内容
検討年度	令和 6 年度（2024 年度）
事業名	豊中市立上野小学校改築（建替え）事業
事業目的	上野小学校は建築後 60 年以上が経過し、老朽化が進んでいる。また、高低差のある敷地や児童数の増加により、建築当時とは異なる学校運営上の課題が生じている。本事業ではこれらの課題を解決することを目的とする。
事業内容	上野小学校における既存施設の解体、新施設の設計・建設。
担当部署	教育委員会事務局 学校施設管理課
評価	簡易評価・詳細評価

2. 評価結果

項目	内容
比較した手法	従来手法（設計施工分離発注）・DB 方式
評価の前提条件 (事業範囲や期間等)	事業範囲：上野小学校の既存施設の解体、新施設の設計・建設
評価結果 (採用手法等)	従来方式（設計施工分離発注）
評価理由	当初、簡易評価において DB 方式を導入することが、本市にとって最もメリットがあると評価したことから、これまで二度公募を行ったが応募がなかった。このことを受け市場調査（アンケート）を行った結果、主な意見として、 ・長期の工期となっており、社会情勢の変化、金利上昇等のリスクに受注者側での対応が難しくなっている。 ・大手ゼネコン、中堅ゼネコンに対し多種の工事が発注されており、手持ち工事が多く新規の受注が難しい ・設計事務所の労務単価上昇に伴う措置がない状況下で長期の契約を受けることが難しい などの意見があった。 事業が長期にわたる DB 方式では応募の可能性が低く、従来方式（設計施工分離発注）であれば、応募の可能性があり、建替え事業が滞るというリスク回避をおこなえることから、従来方式である設計のみで公募型プロポーザルをおこなうもの。 なお、市場調査（アンケート）において、従来方式、設計のみの公募型プロポーザルであれば、設計事務所から「参加可能」などの前向きな意見が、複数徴取されたことから、本事業において従来手法を採用するため、「豊中市公民連携手法の選定に関する基本指針」に定める詳細評価を経ることなく当該採用手法を導入するものである。